



新板  
段名附

風月性本  
全





三教經二部

大保拾叁歲

寅晚春來之

中邑組原并奔枝御

本主有野

慎七

中邑組原

風月淫來

新春日之御氣又かまき

中邑組原并奔枝御

難忘心海の波ふか

事山は波の御氣又かまき





乃以爲之復業函處  
遂以爲之函復其書  
慶中松門都府侯  
面以爲之復業函處  
乃以爲之復業函處

美以爲之復業函處

正母十日

乃以爲之復業函處  
遂以爲之函復其書  
慶中松門都府侯  
面以爲之復業函處  
乃以爲之復業函處

正母十日



心之跡一折一舞のり

七上中下道大光可法

流山響自然のり

品山一苑今を昔のり

逸物中後及山心法

後山時後と法

二月九日

全後河原流山心法

取度お山心法

取度お山心法



市合 以 矣 矣 後 風 直  
 去 之 為 無 意 半 死  
 酒 倒 以 子 句 忠 之 可  
 法 之 作 次 吹 冷 之  
 石 動 法 集 會 久 教 以 之 富

瓶

お 牙 不 之 有 法 持 之 為  
 獨 處 一 双 座 處 之 極  
 荷 瓶 香 所 身 之 目 建  
 蓋 風 槍 合 信 節 之 必 之  
 之 畏 入 心 之 後 下 之 必 之



てと地記酒券  
何物色推年以面  
委細て中後是上  
せん

之 月 日

良之無法目之書

全極山折後有鏡子鏡

物散等一七百萬新法

空系新等や中河

松原河離と流知記

寄交不略山部経

同日抄







唐の書

ふつひの道心とて  
ありては時とて  
はるかに  
高僧合会其無上  
の法を説く  
はるかに  
高僧合会其無上  
の法を説く

蒙  
現尾花  
ありては  
ありては  
ありては  
ありては  
ありては  
ありては  
ありては  
ありては  
ありては  
ありては  
ありては

又月古

唐の書



炎

然を以て者いし柳花の如し

大踏踏い納涼地ら

包米殿泉いし鳥の如

士教おしし事いし法内

馬橋いし事いし事いし

赤い事いし事いし事いし

道又治事いし事いし

百本縮事いし事いし

赤い事いし事いし事いし

玉沖いし事いし事いし

阿田



六月十八日

依主指の以乃指の  
折多しをみゆ小世  
社通夜て事は重一病  
乾猿樂田平家曲者

以下程く人指一  
出ら回るて事ひ為  
百款收程ひて由如  
長程

七月六日



龍毛河中以細こ...

通と... 挿さ...

為な... 時と...

多た... 以も...

其その... 成な...

海うみ... 本もと...

連つ... 次つぎ...

寫うつ... 始はじ...

坂さか... 東あづま...

粟あわ... 毛け...

田の...

九



詩一厥是之乎

八月廿八日

五月廿八日

十日

格不

像

法

如

同

空

1102

十一



承以和漢遺紙歌  
丹今を鏡山寺自  
家下山少殊之

九月十七日

心書之紙披毛札

蒙霧以乾杵

爰任言津罪及公

病之清汁

次市沙佐之事

如敷石權親

西川

十二



徳人心に時を達せぬ  
奉り人許に流す  
憲法に好む能く  
骨料は用ひて  
念く故実作一  
日

の  
際  
字  
も  
つ  
深  
く  
義  
も  
也  
と  
心  
を  
一

十月二日

今  
朝  
為  
清  
初  
書  
一  
冊  
寄  
て  
と  
持  
来  
は  
女  
信  
出  
る

母の信

十三



子に法出は國の之  
て指察は海の時  
便路はるる是具  
久男はるる用はる  
令舞の公女は境

和月亦言

歳末は礼は是湯  
ては入はるるは  
己は會計は一は  
ては物はるるは







